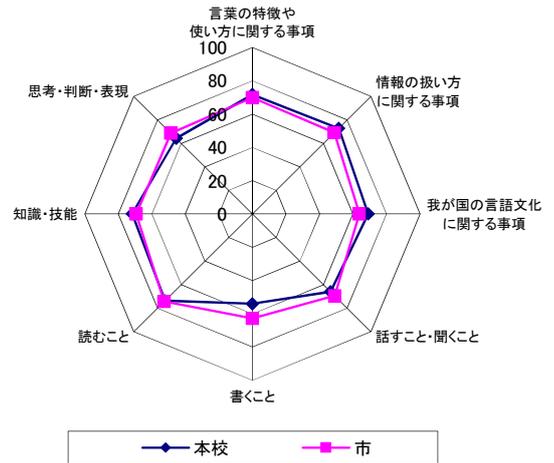


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.7	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	72.7	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	69.1	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.1	69.5	71.5
	書くこと	53.9	62.8	67.1
	読むこと	73.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	71.7	69.4	71.9
	思考・判断・表現	64.2	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

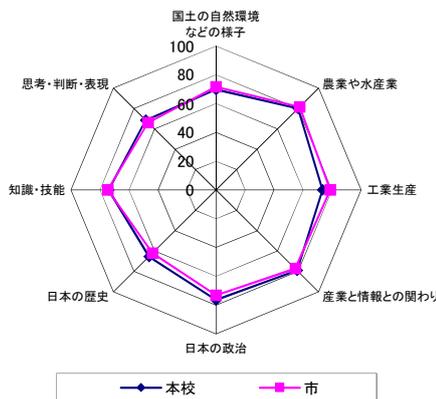
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は71.7%で市の平均よりやや高い。</p> <p>○漢字の読み書きへの理解が市の平均より高い。宿題や自主学習、朝の学習を活用し、繰り返し練習したことによって成果が表れていると考えられる。</p> <p>●文と文との接続の関係についての正答率が、56.4%で市の平均より低い。逆接語の使い方の理解や、「一文目の終わりの五文字」などの答え方への理解について課題が見られる。</p>	<p>・順接や逆接など、文と文との前後関係から適切な接続語を選択する学習を行い、理解を深めていく。</p> <p>・授業の導入等で、既習漢字を繰り返し確認する活動を設け、更なる定着を図っていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は72.7%で市の平均よりやや高い。</p> <p>○説明的な文章を正しく読み取り、その中の情報と情報の関係について理解し、目的に応じた言葉に整理してまとめることがよくできている。</p>	<p>・理科や社会科、総合的な学習の時間等も活用しながら、グラフや文章から得られる情報の読み取り活動を行い、自分の意見を適切に表現する指導を行っていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は69.1%で市の平均より高い。</p> <p>○漢字や平仮名、片仮名などの語句の由来についての関心が高いと考えられる。</p>	<p>・ICT機器を積極的に取り入れながら、児童が関心をもって我が国の伝統的な言語文化の学習が行えるよう、教材教具の工夫をしていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べ低い。</p> <p>●インタビューの内容を捉える設問に対する校内正答率は72.7%で、市の平均正答率を3.5ポイント下回るとともに、意図に応じて質問を工夫する設問に対する校内正答率も、市の平均正答率を4.4ポイント下回った。</p>	<p>・学級活動や普段の生活の中でも、必要な事項や重要な内容はメモを取るなどの指導を行っていく。また、内容の要旨が第三者にも伝わるよう、簡潔にまとめて他者に伝える学習を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べ低い。</p> <p>○ポスターを作るときに情報と情報との関係について理解し目的に応じて文章を簡単に書く設問に対する校内正答率は58.2%で、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。</p> <p>●文章で書く設問においてどの設問においても、市の平均正答率を9ポイント以上下回った。特に、予想される反論とそれに対する意見を書く設問の平均正答率は、市の平均率を16ポイント下回り、指定された長さで文章を書く設問の平均正答率は、市の平均正答率を15.5ポイント下回った。</p>	<p>・国語科に限らず、根拠や理由を明確にししながら自分の意見を伝え合う活動を意図的にを行い、文章表現の技能を高めていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べやや低い。</p> <p>○●物語文において、登場人物の心情について、描写を基に読み取る設問では、市の平均正答率を8ポイント上回っており、日頃から読書を推奨した成果が表れているが、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問では、市の平均正答率を11.4ポイント下回った。</p> <p>○●説明文において、文章全体の構成を捉える設問に対する校内正答率は54.5%で、市の平均正答率を6.8ポイント下回ったが、情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問に対する校内正答率は、市の平均正答率を3.5ポイント上回った。</p>	<p>・文章全体の構成を捉えながら内容や要旨を理解し、筆者の考えや意見を確認しながら読み取る指導を継続して行っていく。</p> <p>・読書を推奨するとともに、読んだ本を簡潔に伝え合う活動を取り入れるなどして、自分の考えを広げる指導を行っていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.8	71.6	67.5
	農業や水産業	80.0	81.5	82.1
	工業生産	73.3	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	79.1	77.2	68.2
	日本の政治	76.4	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	65.5	62.0	65.8
	知識・技能	74.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.5	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

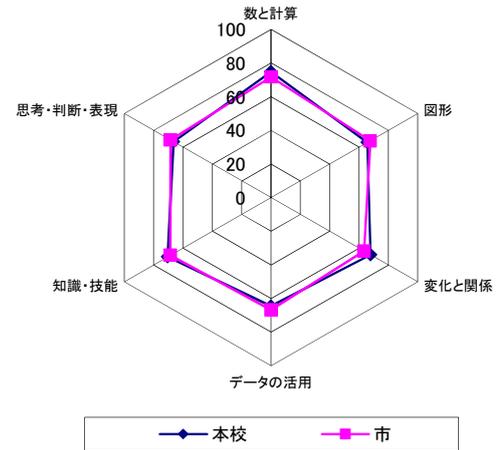
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「日本周辺の海洋名」については、正答率が、90.9%で、市の正答率を5.2ポイント上回っている。</p> <p>●「韓国の国旗と位置」「日本の主な地形の名称と位置」の理解については、それぞれ正答率が、63.6%、34.5%で、市の正答率を9.1ポイント、2.6ポイント下回っており、理解に課題が見られる。</p> <p>●「自然災害から生活を守る設備(防潮堤)についての理解」については、正答率が、83.6%で、市の正答率を2ポイント下回っている。</p>	<p>・国土について学習する際には、地図帳や実際の写真を用いたり、国旗や文化などを確認したりしながら学習を行うなどして、関心を高めていく。</p> <p>・社会科に限らず、総合的な学習の時間とも関連付けながら、我が国に対する関心を高めていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○「都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに適切な地図を判断」することについては、正答率が、81.8%で、市の正答率を2.2ポイント上回っている。また、「カントリーエレベーター」の理解については、正答率85.5%で、市の正答率を3ポイント上回っている。</p> <p>●「地産地消の取り組み」の理解については、正答率が72.7%で、市の正答率を9.8ポイント下回っている。</p>	<p>・宇都宮学や総合的な学習の時間とも関連付けながら、身近な自然環境の特徴や地域の特産物について学習する時間を設け、地域の特性を生かした取組について理解を深める指導を行っていく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●「キャリアカーと船に着目して自動車の出荷の工夫を捉え表現」することについては、正答率が52.7%で、市の正答率を9.5ポイント下回っている。</p> <p>●「日本の輸出品の資料」の読み取りについては、正答率が、74.5%で、市の正答率を7ポイント下回っており、資料を読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・表や資料を正しく読み取り、活用する力を育むために、算数科との横断的な学習を図りながら指導を行う必要がある。</p> <p>・一般に流通するさまざまな製品において、それらを効率的に普及するための工夫について考える学習を行い、知識・理解を深める必要がある。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○「メディアの特徴を理解」することについては、正答率が、94.5%で、市の正答率を2.8%上回っている。</p>	<p>・情報化した社会に関する学習については、今後の社会生活においても密接に関わることから、日頃より身近にあふれているさまざまなメディアに着目させ、関心をもたせるような指導を行っていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○「基本的人権の尊重について、生活の中の具体的な事例をもとに判断」することについては、正答率が、92.7%で、市の平均正答率を7.9ポイント上回っている。また、「図に着目して、国民による政治の仕組みを判断」することについては、正答率が、61.8%で、市の正答率を11.8ポイント上回っている。</p> <p>●「日本国憲法についての理解」については、正答率が、70.9%で、市の正答率を5.7ポイント下回っている。</p>	<p>・日本国憲法についての理解については、歴史の学習とも関連しながら、戦前から戦後にかけての歴史的背景にも触れながら説明を行い、成立までの流れを確認していく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○全ての項目で市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「大和朝廷についての理解」については、正答率が、70.9%で、市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○「奈良時代の資料に着目して、日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え、表現」することについては、正答率が、41.8%で、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。</p> <p>○「室町時代の文化についての理解」については、正答率が、63.6%で、市の平均正答率を5.5ポイント上回っている。</p>	<p>・各時代の主な出来事や暮らしの様子について復習を行い、更なる知識の定着を図るとともに、資料を基に読み取ったことや世界的な歴史の流れとも関連しながら自分の言葉で説明する活動を意図的に設定していく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	71.8	76.2
	図形	65.6	67.7	67.8
	変化と関係	67.9	63.4	62.7
	データの活用	64.5	66.7	61.5
観点別	知識・技能	70.4	68.6	70.7
	思考・判断・表現	66.4	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

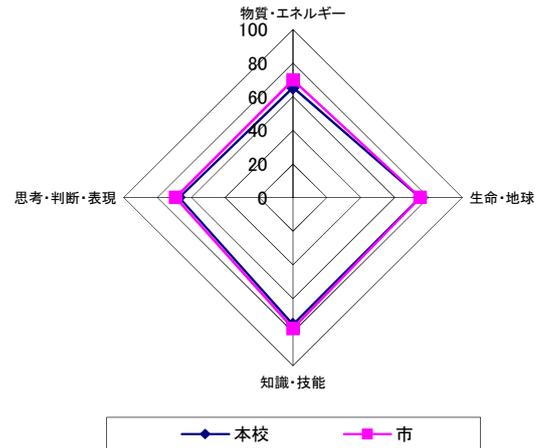
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○小数や分数同士の計算は市の平均を上回っており、校内の正答率が100%の問題もあった。繰り返し計算練習を行ったり、復習に取り組んだりした成果が表れ、基本的な計算の技能が身に付いていると言える。</p> <p>●図を見て、小数倍の文章問題を解くための立式をする問題では、市の平均を下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文章問題を解く機会を設け、問題から数量関係を図に表し、立式できるような技能を高めていく。 ・数量関係を自ら見出し、見出した関係がほかの場合でも成り立つか確かめる活動を設定する。
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○三角形の面積を求めたり、点対称な図形の対応する辺を求めたりする問題で市の平均を上回った。合同な三角形を作図する問題では、市の平均を9.3ポイント上回っており、作図の方法が定着していることがうかがえる。</p> <p>●「正多角形・合同・立体」の設問では、4問中2問が市の平均を下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円の中心の角度を等分する正多角形の書き方を復習したり、プログラミングの学習に取り組んだりする機会を設け、正多角形に関する知識・理解を深めていく。 ・三角形の合同条件を復習し、合同な図形とともに、拡大図・縮図の作図にも応用できるようにする。
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直す問題では、市の平均を11.1ポイント上回った。</p> <p>●割合の学習を活用して混み具合を比較する問題では、平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量関係を図に表し、基準量・比較量・割合の関係を明らかにして、数量関係を正確に捉える復習の機会を設ける。さらに、円グラフや帯グラフから、データを読み取る技能を高めていく。 ・自分の考えを的確に説明することができるよう、言葉や式、図などを使ってを説明する活動を多く設定する。
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○折れ線グラフや棒グラフを読み取る問題では市の平均を上回った。</p> <p>●「平均・データの見方」の設問では、市の平均を下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値とともに、最頻値や中央値など、代表値の意味や求め方を復習する機会を設け、データの見方に関する知識・理解を深めていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.5	69.9	67.8
	生命・地球	74.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	75.5	77.8	78.4
	思考・判断・表現	67.2	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均よりやや低い。</p> <p>○「水よう液の性質について、いずれも市の平均正答率とほぼ同じである。また、実験結果から物質の性質について推測する設問において、正答率が8割を超えていることから、結果を基に考察する力が定着していると考えられる。</p> <p>●「物のとけ方」について、校内正答率はいずれも市の平均正答率を5ポイント以上下回っている。</p>	<p>・各単元の復習プリントやAIDドリルを活用するなどして、学習内容の定着を図るとともに、生活に関連付けて事例を挙げたり自然現象を振り返ったりする活動を通して、知識や思考力をより深められるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」「生物とかんきょう」について、校内正答率が8割を超えている設問が多いことから、学習内容は概ね定着していると考えられる。</p> <p>○●「植物の発芽と成長」について、実験結果から得られる事象を考察することに関する設問においては市の平均正答率を4.1ポイント上回っている一方で、実験の計画や操作に関する設問においては、いずれも市の平均正答率を4ポイント以上下回っている。</p>	<p>・実験の際には必ず予想を立てるとともに、考察モデルを提示したり変化させる条件について考えさせたりするなどして、科学的根拠をもとに自分の言葉で説明できるよう指導を行っていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める 言語活動の工夫	・各教科で小グループでの話し合いの活動を取り入れ、自分の考えと友達の考えとの違いや新たな考えに気付かせるようにする。	・「話し合いに進んで参加している」の肯定割合が、市の肯定割合を上回った学年が多かったが、「考えを理由や根拠を挙げながら話す」の肯定割合は、市の肯定割合をやや下回る学年が多かった。
基本的な学習習慣の確立	・「陽南学習のきまり」の振り返りを行い、基本的な学習習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組めるようにする。	・「授業の始まりには席に着く」「友達の話を聞く」「忘れ物をしない」などの基本的な学習習慣についての設問において、学年により差があるが、市の肯定割合を上回る項目が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学習内容定着度調査の結果だけではなく、国、県に関わるテストの結果を踏まえると、少人数グループでの言語活動の工夫により、進んで話し合ったり、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになった児童が多かった。一方で、「書く活動」や「話し合う活動」において、根拠を明確にしながら表現することについては、課題が残った。引き続き、学び合いの中での言語活動の工夫を取り入れた授業づくりを行い、課題の解決を図っていきたい。